

図 5.1-12 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
(放流直後~平成 20年 1月 9日 12:00 までの経路)

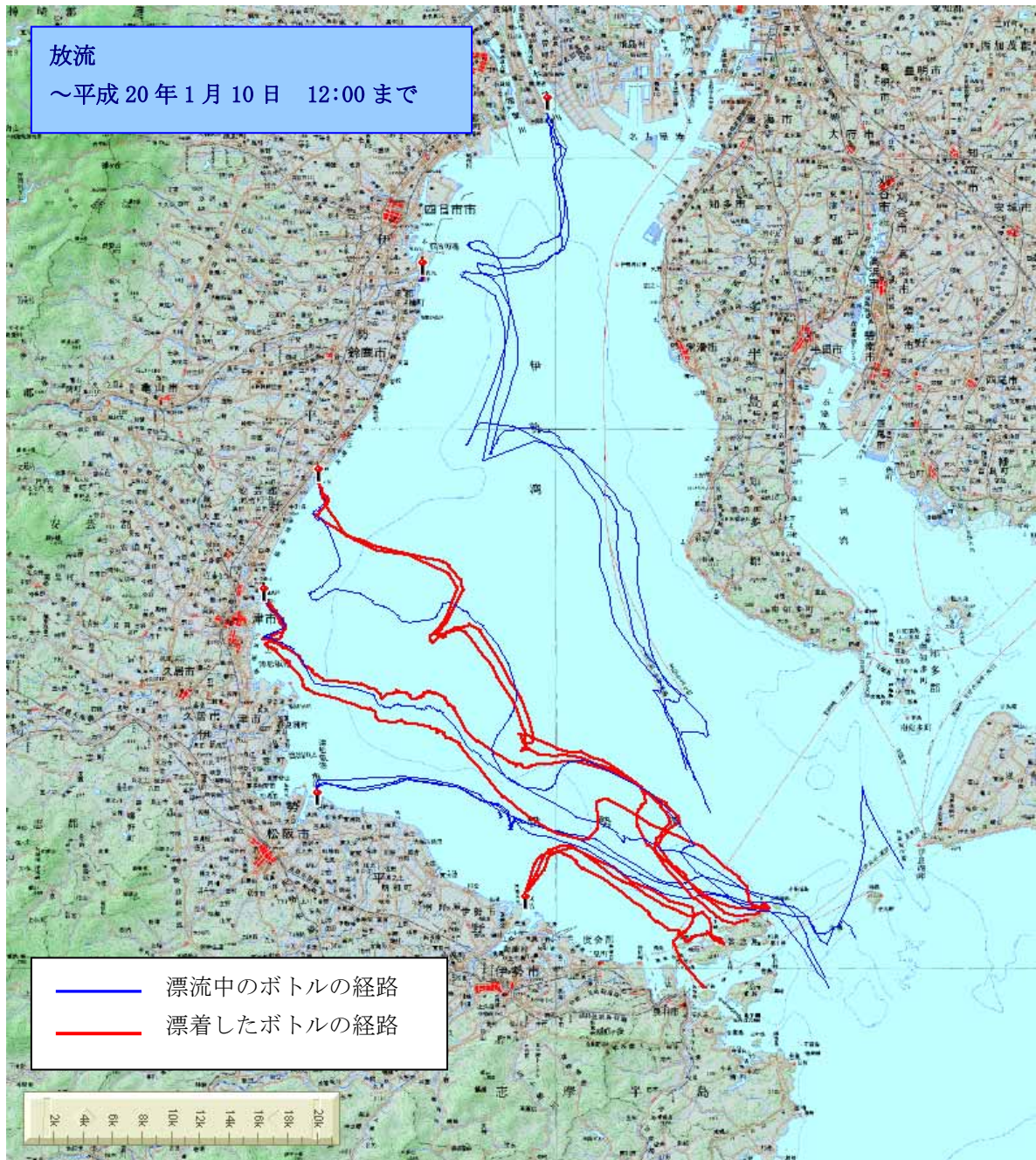


図 5.1-13 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
(放流直後~平成 20年 1月 10日 12:00 までの経路)

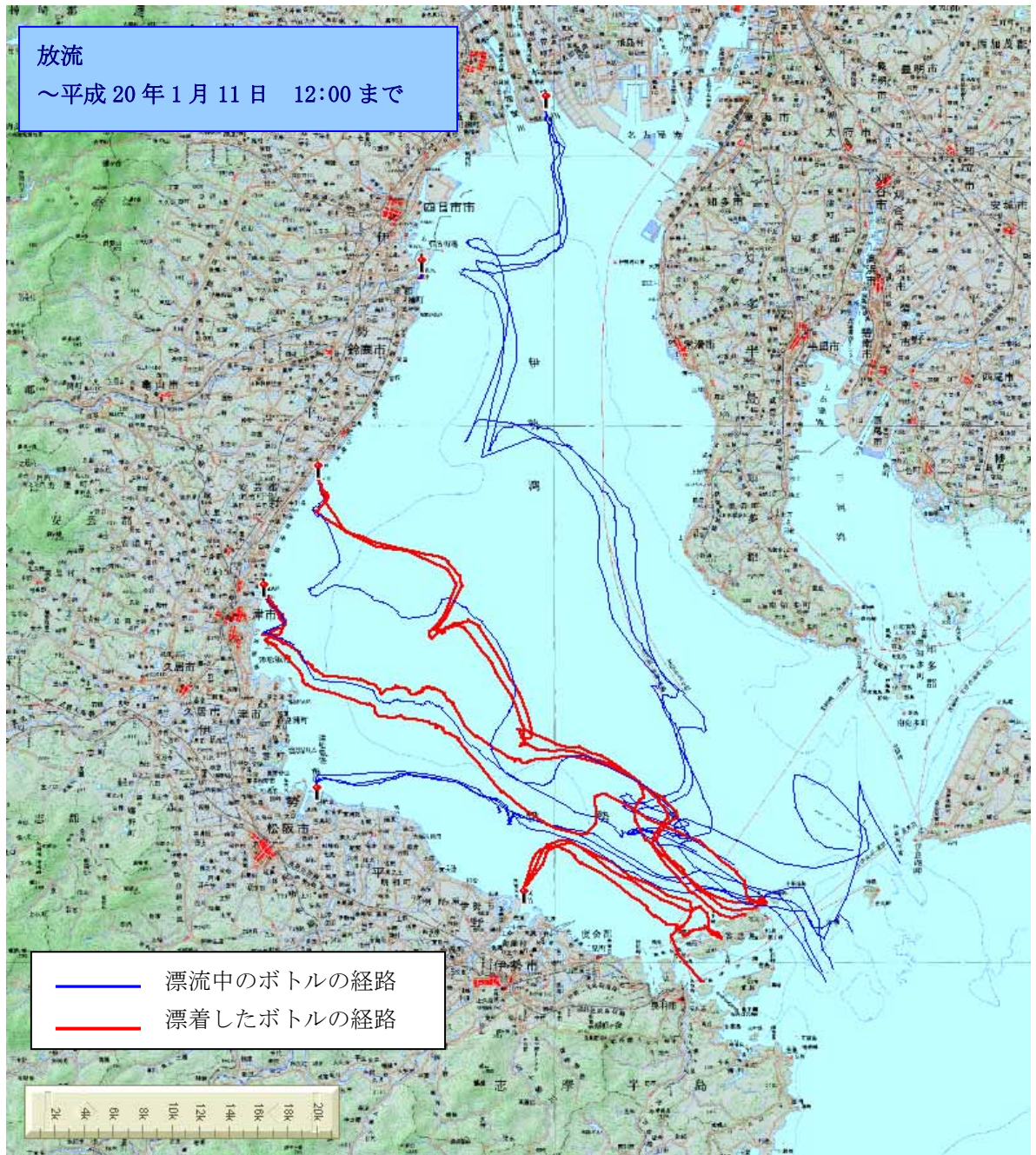


図 5.1-14 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
(放流直後~平成 20年 1月 11日 12:00 までの経路)

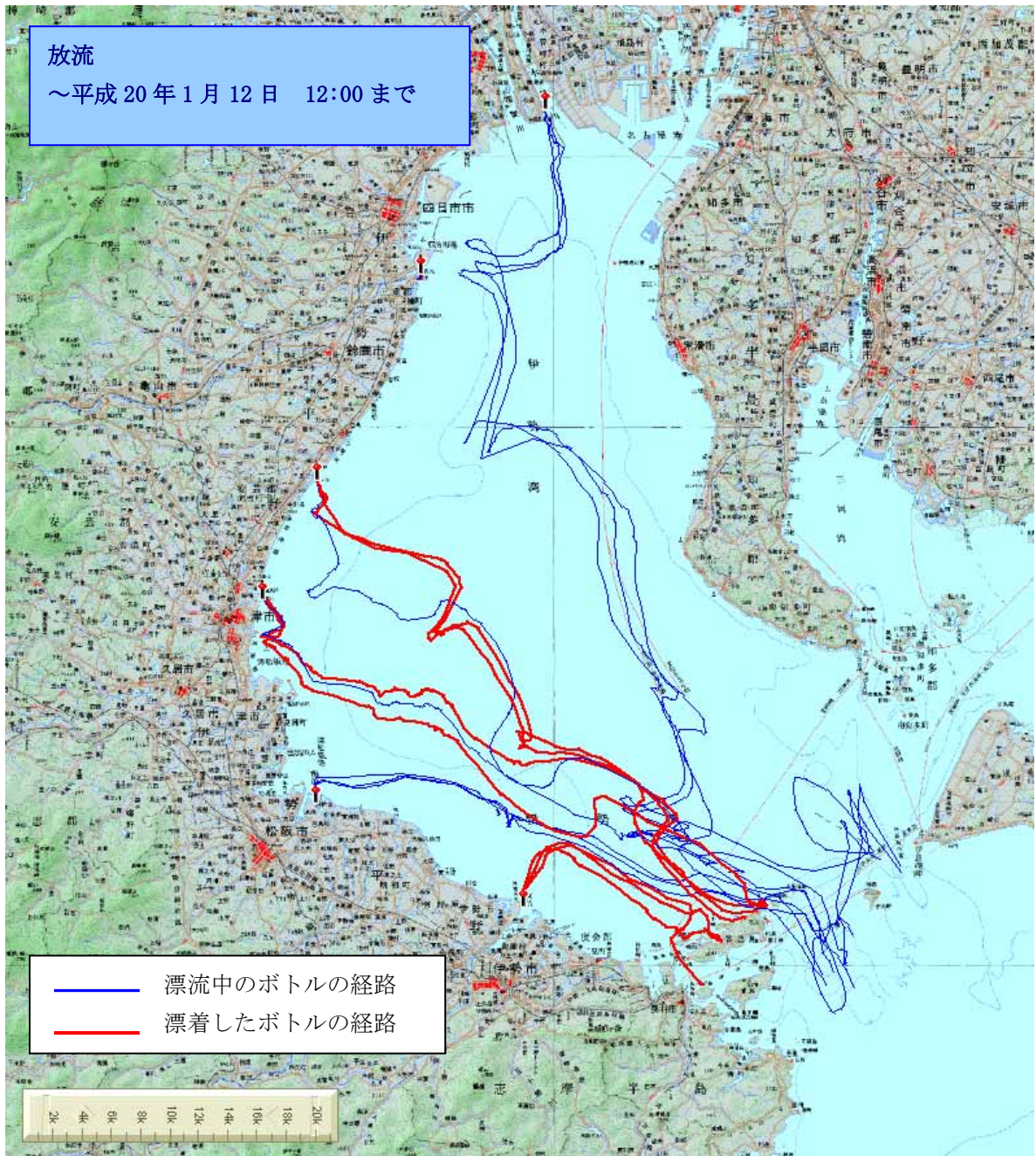


図 5.1-15 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
 (放流直後～平成 20 年 1 月 12 日 12:00 までの経路)

(3) 漂流ボトルの漂着割合（生分解性漂流ボトル調査結果）

生分解性漂流ボトルについては、発信機付漂流ボトルの漂着情報や一般市民から寄せられた回収報告を参考とし、漂着の確認及び回収を行った（図 5.1-16）。



図 5.1-16 生分解性漂流ボトルの漂着状況

：平成 20 年 1 月 8 日答志島にて撮影、 ：平成 20 年 2 月 7 日伊良湖岬周辺にて撮影

表 5.1-8 に生分解性漂流ボトルの回収状況を示した（同集計値には、一般市民から寄せられた回収報告（合計 16 本）も含まれている）。

表 5.1-8 生分解性漂流ボトルの漂着、回収状況

放流河川	伊勢湾内に漂着後回収	答志島への漂着
木曾川	30	0
鈴鹿川	90	0
中の川	0	0
安濃川	17	17
櫛田川	32	32
宮川	41	41
合計	211	90

図 5.1-17 には生分解性漂流ボトルの漂着割合を示した。鈴鹿川河口での漂着事例 (86 本) は、発信機付漂流ボトルと同様、短時間で放流地点近傍に漂着したものである。

答志島では、安濃川放流分が 17 本、櫛田川放流分が 32 本、宮川放流分が 41 本回収された。伊良湖岬周辺の西の浜では、木曾川放流分が 29 本、鈴鹿川放流分が 4 本回収されている。木曾川放流分については、知多郡美浜町においても 1 本回収報告が得られている。

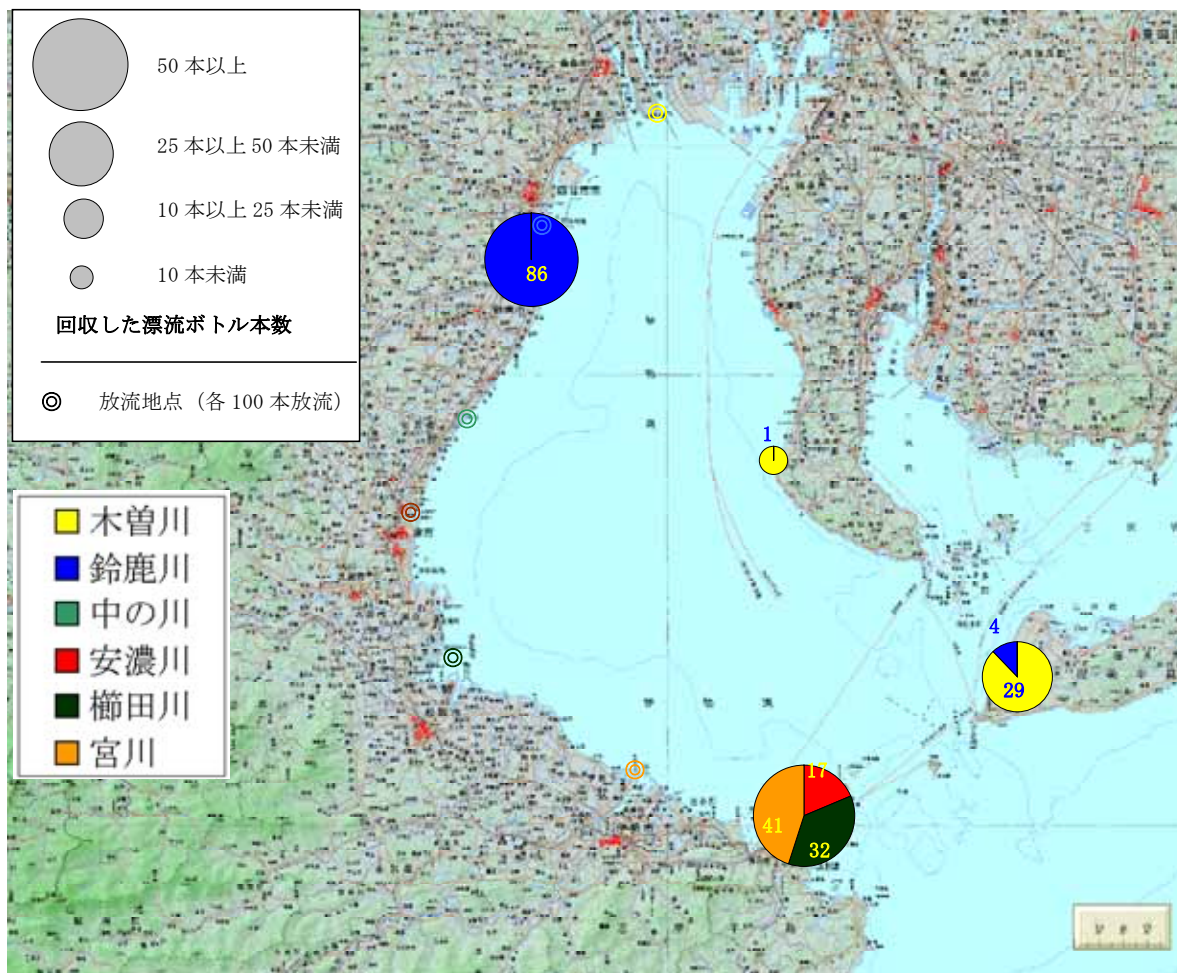


図 5.1-18 生分解性漂流ボトルの漂着割合

5.2 定点観測調査

5.2.1 調査目的・内容

2ヶ月毎のクリーンアップ調査期間におけるモデル地区のゴミ漂着状況を補完するため、奈佐の浜（1撮影点、2方向）を対象に、9月19日より、毎週1回を原則として撮影点からの撮影を継続している。定点は、図5.2-1に示した撮影点から北側、南側の2方向で実施している。

なお、撮影は次の方々に依頼、実施して頂いた。

撮影者：鳥羽市環境課 浜口様

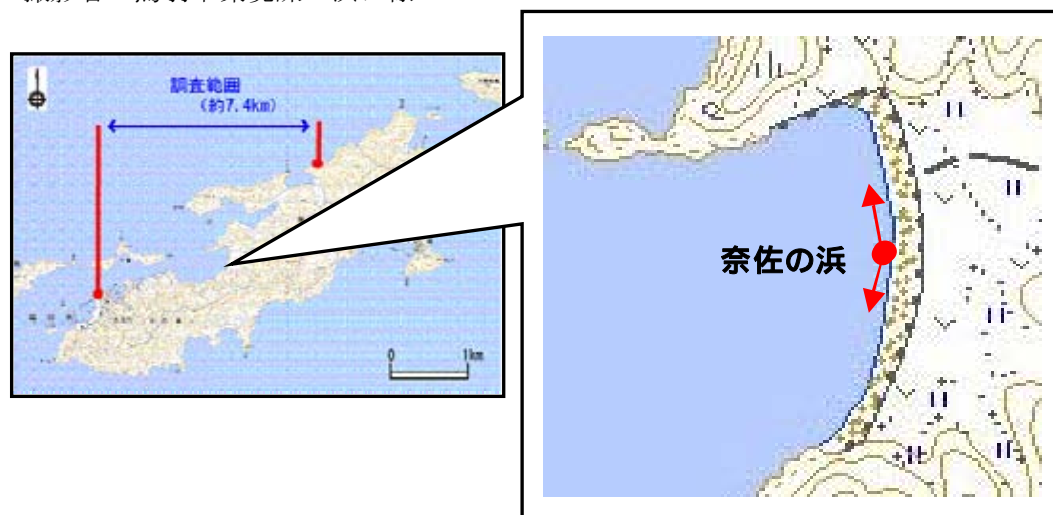


図 5.2-1 答志島・奈佐の浜での定期撮影位置

5.2.2 調査結果

平成19年9月19日～平成20年10月29日までの全ての定点撮影結果を、次頁以降に示した。奈佐の浜に漂着するゴミは、撮影点の北側と南側でクリーンアップ調査終了後から調査前の状態に戻るまでの時間に違いがあるようである。

撮影点より北側では、クリーンアップ調査終了後、約2週間はきれいな状態を維持している。調査終了後の3週間から徐々にゴミの漂着(プラスチックゴミより判断した)が増加し、おおむね5週間後にはクリーンアップ調査前の状況に戻っていた。

撮影点より南側では、クリーンアップ調査終了後の1週間はきれいな状態を維持しているが、おおむね2週間後にはクリーンアップ調査前の状況に戻っていた。

撮影点より南側は、共通調査の定点5に相当する場所であり、他の定点より漂着ゴミの多い場所である。ここに漂着ゴミが多い理由の一つとして、図5.2-1に示したとおり、北西に開けた湾であるという地形的条件が挙げられる。詳細にみると観測点より北側は、岬の突き出しにより北西の風が直接当たらない状況だが、南側は北西風や波浪が直接打ち寄せる場所である。

気象庁の鳥羽の気象観測所の風向データによると、第2回目のクリーンアップ調査後は、北北西の風が多く観測されている。

以上のことから、北西風が多く観測される期間においては、観測点の北側と南側で漂着状況が異なっていたものと思われた。

定点写真（北側方向）



9月19日



9月26日



10月3日



10月10日



10月17日（10/14～19 調査実施）



10月24日



10月31日



11月7日



11月14日



11月21日



11月28日



12月5日 (12/3~7 調査実施)



12月12日



12月19日



12月28日



2008年1月2日